

各位

三神地域農業指導者連絡会作物部会
三神農業振興センター

「稲作情報（第5号）」について（送付）
このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

稲・大豆作情報（第5号）

1. 情報田生育調査結果について

(1) 耕種概要

品種名	夢しずく (上峰町)	ヒノヒカリ (鳥栖市)	さがびより (みやき町)	ヒヨクモチ (神崎市)
移植日(月日)	6月11日 (平年：6/10)	6月23日 (平年：6/20)	6月19日 (平年：6/21)	6月20日 (平年：6/21)
栽植密度(株/㎡)	15.7 (52.5株/坪)	18.5 (61.6株/坪)	18.8 (62.6株/坪)	16.8 (55.9株/坪)

(2) 調査結果（7月26日現在）

品種名	夢しずく	ヒノヒカリ	さがびより	ヒヨクモチ
草丈(cm)	88.9	66.5	69.5	57.0
平年値(平年比)	83.8 (106)	65.5 (101)	66.3 (104)	58.4 (98)
茎数(本/㎡)	324	400	443	585
平年値(平年比)	324 (100)	506 (79)	518 (86)	663 (88)
葉齢(L)	12.0	11.0	11.5	11.7
平年値(平年比)	11.9 (+0.1)	11.5 (-0.5)	11.9 (-0.4)	11.9 (-0.2)
葉色(SPAD値)	47.0	48.0	43.6	44.3
平年値(平年比)	39.2 (120)	41.2 (117)	42.5 (103)	41.4 (107)

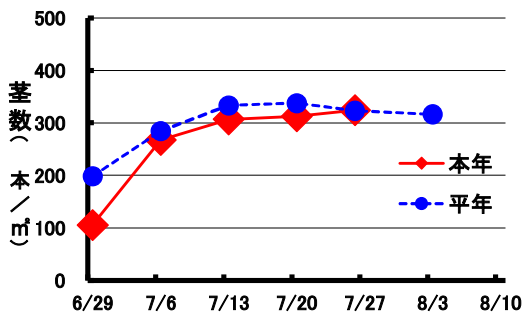


図1 夢しずく茎数の推移

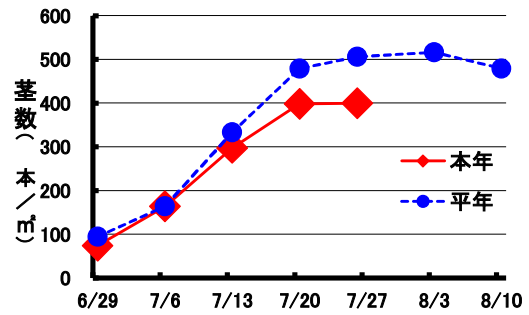


図2 ヒノヒカリ茎数の推移

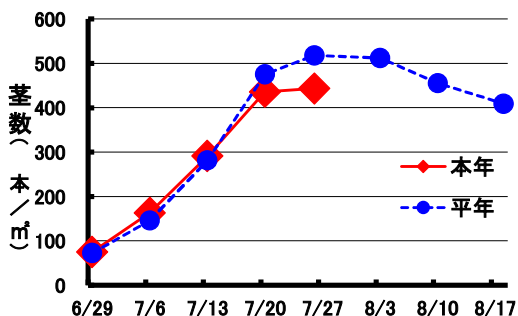


図3 さがびより茎数の推移

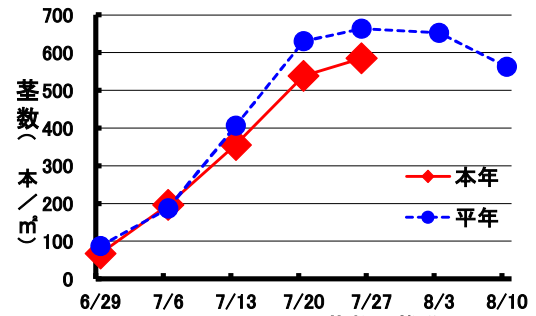


図4 ヒヨクモチ茎数の推移

2. 気象及び普通期水稻の生育概況について（7月26日現在）

（1）気象（7月19日～26日までの期間）

- 【平均気温】 平年より0.1℃低い。
- 【日照時間】 日年比87%と短い。
- 【降水量】 平年比187%と多い。

（2）生育概況

草丈は「ヒヨクモチ」でやや平年より低く、その他の品種で高くなっている。茎数は「夢しずく」で平年並み、その他の品種で平年に比べ少なくなっている。主幹葉齢の展開は、「夢しずく」を除き、平年よりやや遅くなっている。

3. 普通期水稻の今後の管理について（7月29日～）

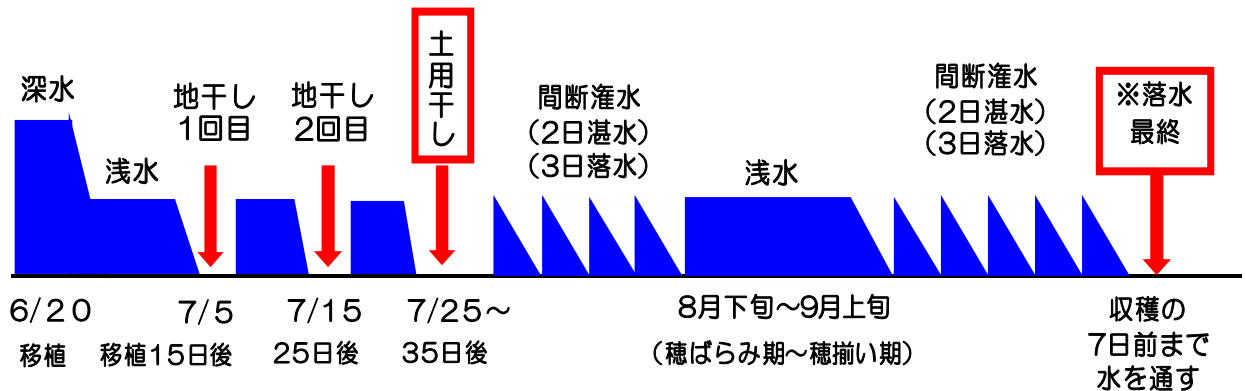
（1）水管理

①「夢しずく」の水管理

- ・移植が6月10～14日頃の圃場では幼穂形成期を迎えている。（情報田の幼穂3～4mm）
- ・幼穂形成期を迎えた圃場は、中干しを終え、穂ばらみ期まで「間断冠水（2日湛水3日落水）」を実施する。その後、穂揃い期まで浅水状態で湛水を保つ。

②「ヒノヒカリ」・「さがびより」・「天使の詩」・「ヒヨクモチ」の水管理

- ・「ヒノヒカリ」・「さがびより」・「天使の詩」では、8月上旬頃～、「ヒヨクモチ」では8月中旬頃に幼穂形成期を迎える。
- ・幼穂形成期以降は、稲が水を必要とする時期なので、幼穂形成期前までに「中干し」を終了し、穂揃い期まで浅水で湛水状態を保つ。



- ・なお、品種毎の目標茎数（表1）が達成出来ていない場合は、浅水管理で分けつを促し、幼穂形成期前までに「軽めの中干し」を実施する。

表1. 品種毎の目標茎数

品種	目標茎数 (本/m ²)	有効茎数	
		50株/坪 (15.2本/m ²)	60株/坪 (18.2本/m ²)
ヒノヒカリ	370	24本/株	20本/株
さがびより	370	25本/株	21本/株
天使の詩	360	24本/株	20本/株
ヒヨクモチ	440	25本/株	24本/株

③台風対策

台風5号が7/30以降に九州に接近する恐れがあり、進路によっては水稻への影響が懸念されます。

<台風通過前対策>

- ・風による稲体の動揺（損傷）を少なくするために深水管理を行いましょう。
 ※特に幼穂形成期～穂ばらみ期においては、茎葉の繁茂度が高く水分の蒸散量が著しい時期であるので、必ず**深水・湛水**を行って下さい。

<台風通過後対策>

- ・**台風通過後は必ず新しい水と入れ替えて、こまめに間断灌水を行う**ことで水稻の根の機能維持及び生育回復に努めて下さい。
- ・台風通過後は受光体制が乱れ、ウンカや白葉枯れ病等が発生しやすくなるため、台風通過後、**トビイロウンカの発生には十分注意**し、場合によっては薬剤防除を実施して下さい。

(2) 穂肥

- ・「ヒノヒカリ」・「さがびより」は8月上旬頃～幼穂形成期時期（幼穂長1mm程度の時期）を迎える見込みである。
- ・施用時期が遅れないように**下記表の穂肥診断（草丈・葉色・幼穂長の確認）に基づき**、穂肥を施用する。
 ※隣接圃場が「ヒヨクモチ」だと葉色が著しく淡く見えるので留意する。
 ※夢しずくは、既に穂肥の施用時期を過ぎている。

①「ヒノヒカリ」の穂肥診断基準

表2. 出穂前日数と幼穂長の関係

◎穂肥時期の目安

出穂前日数	22 ~ 20	19 ~ 18	18 ~ 16	16 ~ 15
主稈の幼穂 (mm)	1 ~ 2	3 ~ 5	5 ~ 15	15 ~ 80

表3. ヒノヒカリの穂肥診断基準

幼穂1mmの時の草丈	葉色	葉色版群落葉色	SPAD	幼穂長 (mm)	BB602の施用量 (kg/10a)
80cm以下	淡い	3.0以下	34以下	1~2	20kg
	標準	3.0~3.5	34~38	3~5	20kg
	やや濃い	3.5~3.8	38~39	5~15	15kg
	濃い	3.8以上	39以上	15~30	施用しない
80cm以上	淡い	3.0以下	34以下	1~2	15kg
	標準	3.0~3.5	34~38	3~5	15kg
	やや濃い	3.5~3.8	38~39	5~15	施用しない
	濃い	3.8以上	39以上	15~30	施用しない

※穂肥時に葉色が淡い～薄い状況で、幼穂長が5~15mmだった場合、2~5割減肥する。
 幼穂長30mm以上の場合は、食味の低下が懸念されるため穂肥は施用しない。

② 「さがびより」の穂肥判断基準

表 4. 出穂前日数と幼穂長の関係

出穂前日数	22 ~ 20	19 ~ 18	18 ~ 16	16 ~ 15
主稈の幼穂長 (mm)	1 ~ 2	3 ~ 5	5 ~ 15	15 ~ 80

◎穂肥時期の目安

表 5. さがびよりの穂肥診断基準

幼穂 1mm の時の草丈	葉色	葉色版群落葉色	SPAD	幼穂長 (mm)	BB602の施用量 (kg/10a)
75cm 以下	淡い	2.5 以下	34 以下	5	15kg
	標準	3.0 ~ 3.5	34 ~ 38	10	10kg
	やや濃い	3.5 ~ 3.8	38 ~ 39	15	7.5kg
	濃い	3.8 以上	39 以上	施用しない	
75cm ~ 80cm	淡い	3.0 以下	34 以下	10 ~ 15	10kg
	標準~濃い	3.0 以上	37以上	施用しない	
80cm 以上	施用しない				

※早くても幼穂長が 5mm になっていることを確認して穂肥を施用する。

※葉色が濃い圃場や幼穂長が 15mm 以上になっている圃場での穂肥施用は、食味低下が懸念されるため、穂肥は施用しない。

～穂肥時期と穂肥量による収量・品質への影響～

時期) 早すぎる穂肥 → 止葉が伸び、倒れやすく、籾数が多すぎて登熟が悪くなる
遅すぎる穂肥 → 籾数が少なく、減収し、米の蛋白含量が高く食味が落ちる

量) 多すぎる穂肥 → 倒れやすく、籾数が多く登熟が悪く、蛋白含量が高く食味が落ちる
少なすぎる穂肥 → 籾数が少なく、減収し、米がやせて品質が落ちる

※) 中干し直後に葉色が淡く草丈が低い圃場についても、中干しの乾土効果(土壌中の有機体窒素が分解によって水稻に吸収される形になる)により、急激に葉色が濃くなる場合がありますので、圃場の状況に合わせて散布しましょう。

(3) 病害虫防除について

①海外飛来性害虫


- 7月29日現在、ウンカ類（セジロウンカ、トビロウンカ）は、6月25日頃、7月8日頃、7月19日頃に飛来が確認されている。
- 一部の圃場ではウンカ類の幼虫（セジロウンカ主体）が確認されている。
- 今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

防除適期①

8/7~8/16頃

防除適期②（状況に応じ）

9/1~9/3頃

佐賀県 農業技術防除センター 
 ※防除適期は「幼虫ふ化揃い期」です。

<要防除水準>

7月下旬~8月上旬にトビロウンカの成虫または幼虫が10株あたり2頭確認される場合は幼虫ふ化揃い期に防除しましょう。

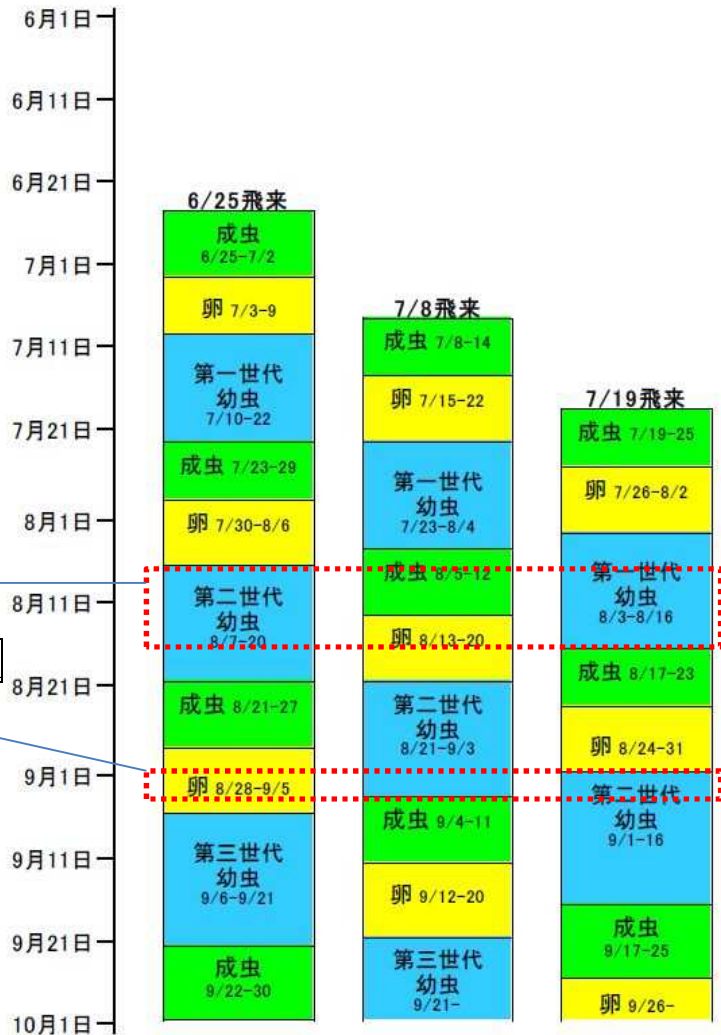


図1 トビロウンカ各世代の発生予測(第3版、2022年7月20日作成)

②斑点米カメムシ類について

- 出穂後に畦畔除草をおこなうと水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長しますので、出穂 10 日前までに草刈りを済ませましょう。

表 6. 各品種別の草刈り時期の目安

品種名	出穂期（平年）	出穂 10 日前
夢しずく	8/12	~8/2 頃まで
ヒノヒカリ	8/27	~8/17 頃まで
さがびより	9/1	~8/22 頃まで
ヒヨクモチ	9/5	~8/27 頃まで

※出穂期（平年）は、三神管内における情報田のデータの平均値

③いもち病

- 本田で新たな病斑の発生が認められたら防除を検討する。
- 補植用の苗を圃場に放置すると、いもち病の温床となるので早急に撤去する。

④紋枯れ病

- 高温多湿条件が続くと、紋枯れ病が発生する恐れが高まりますので注意が必要です。
- 病斑が確認される場合は、病斑が上位葉の葉鞘に進展（垂直進展）する時期に防除をおこないましょう。（液剤・粉剤の場合は、出穂の 10~20 日間を目安）

(4) 除草作業

- 除草剤が散布できなかつた圃場や除草剤処理後に田面が露出した圃場などでは、除草剤の効果が低下したため、雑草の発生が見られる。
- このような圃場で、放置するとヒエや広葉（コナギ・アゼナ）が繁茂し、薬剤による雑草防除が困難となるため、中後期除草剤との体系処理を検討する。

表7. 残草の目立つ圃場での防除方法

使用例	除草剤名	剤型	使用時期	備考
ノビエの発生が多い圃場	クリンチャー1 扣粒剤	粒	移植後 7日～ル I 4L (但し、収穫30日前まで)	湛水散布 (3～4日は湛水)
	クリンチャーEW	液	移植後 20日～ル I 6L (但し、収穫30日前まで)	落水散布。展着剤加用する。
	ヒエクリーン1 扣粒剤	粒	移植後 15日～ル I 4L (但し、収穫45日前まで)	湛水散布 (3～4日は湛水)
広葉雑草	バサグラン粒剤	粒	移植後 15日～55日 (但し収穫60日前まで)	<ul style="list-style-type: none"> • 落水～ごく浅く湛水散布。最低3日間 (浅水処理は5日間) 入落水しない。 • 処理後2日以内の降雨があると効果が低下する恐れあり。 • 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。
	バサグラン液剤	液	移植後 15日～55日 (但し収穫50日前まで)	
ノビエと広葉雑草の両方	クリンチャーバスME 液剤	液	移植後 15日～ル I 5L (但し収穫50日前まで)	<ul style="list-style-type: none"> • 落水～ごく浅く湛水散布。最低3日間 (浅水処理は5日間) 入落水しない。 • 処理後2日以内の降雨があると効果が低下する恐れあり。 • 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。 (展着剤加用しないこと)
	ハイカット1 扣粒剤	粒	移植後 15日～ル I 3.5L (但し、収穫60日前まで)	湛水散布 (3～4日は湛水)
	ワイドアタックSC	液	移植後 20日～ル I 6L	落水～ごく浅く湛水散布。 (展着剤加用しないこと)

注 1) 除草剤の再散布を行う場合は農薬の使用基準を遵守し、同一薬剤は避けて散布しましょう。

なお、再散布にあたっては最寄りのJA もしくは農業振興センターまでご相談ください。

注 2) 除草剤の散布に当たっては、剤により処理時の水管理が異なりますので注意してください

注 3) 薬剤は地区の暦参照 (掲載品目が異なるため)

4. 大豆の今後の管理について

1) 大豆の生育状況

ほとんどの圃場で播種作業は終了していますが、播種期が6月下旬～7月下旬にかけて幅広いため、播種期により圃場間で生育格差が見られます。

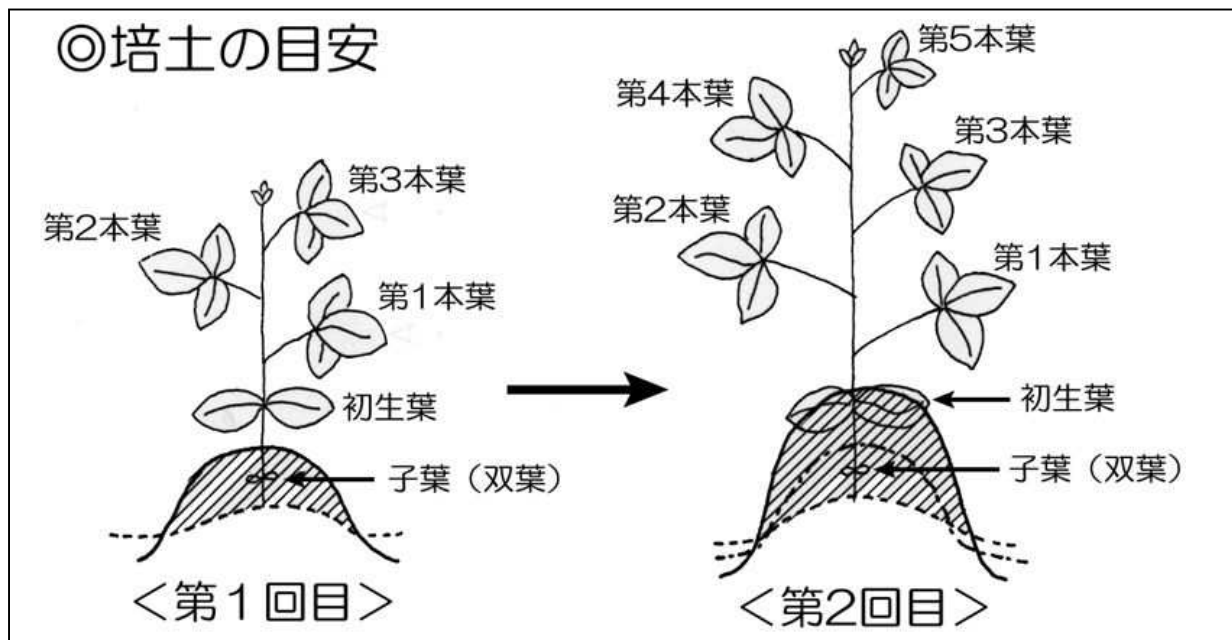
大豆の生育ステージは、6月下旬頃播種が本葉6～7葉程度、7月上旬頃播種が本葉3～4葉程度、7月中旬頃播種が本葉1～2葉程度となっています。

2) 今後の管理

○中耕・培土の実施

- ・6月下旬播種：2回目の培土時期頃です。本葉が5枚開いたのを確認したら、初生葉（子葉の上の葉）が隠れる程度まで行ってください。
- ・7月上中旬播種：1回目の培土時期頃です。本葉が3枚開いているのを確認したら、子葉が隠れる程度まで1回目の培土を行ってください。

※特に、降雨等で除草剤の散布ができなかった圃場では、早めの中耕培土で雑草対策を行いましょう。



3) 今後の播種及び出芽が不十分な圃場での再播種

- ・今後の週間天気予報を見ると、週末にかけ台風5号の影響により曇りや雨のとなるものの、その後は晴れの日が多く比較的安定した天候が続く見込みです。

参考) 週間天気予報 (佐賀県: 7月29日 11時時点 佐賀地方气象台より)

29日(金)	30日(土)	31日(日)	1日(月)	2日(火)	3日(水)	4日(木)
☀️ 後 ☁️	☁️	☁️ 一時 ☔️	☁️	☀️ 時々 ☁️	☀️ 時々 ☁️	☁️ 時々 ☀️

- ・安定・多収を目指すには「出芽・苗立ち」が重要であり、播種前後の天気予報には十分留意して播種して下さい。
- ・大豆は播種後2日間の大雨や浸水で発芽率が著しく低下する為、播種後2～3日以内に冠水するような大雨が予想される場合の播種は実施しないようにしましょう。

- 18日～19日にかけて断続的な降雨の影響により、一部に冠水した圃場が見られています。このような圃場で、播種から1週間程度経過しても出芽が見られない場合には土を掘り返し種子の状況を確認のうえ腐敗等で出芽が期待できない際は、再播種を検討してください。

○播種量の調整

- 今後の播種では、大豆の収量を確保するため、下記の播種様式例を参考に、播種量を増やすことで、播種時期にあった栽植本数を確保しましょう。

播種期	栽植本数 (本/m ²)	栽植様式 条間×株間×1株本数	播種量 (kg/10a)
7月26～31日	24本 27本	(2条播き)75cm×11cm×2本 (3条播き)50cm×15cm×2本	7～8kg/10a

※7/26～播種圃場において地力が低い圃場については、窒素成分で4kg/10aの基肥を施用する必要があります。

◎ 基肥の施用例 (kg/10a)

硫安の場合 → 20kg 尿素の場合 → 10kg

注意) 基肥を施用した場合は、根粒菌からの窒素供給が劣ります。
収量確保のため、9月上中旬に「花肥」の施用が効果的です。
(窒素4～8kg/10a)

4) 除草剤について

○播種後処理

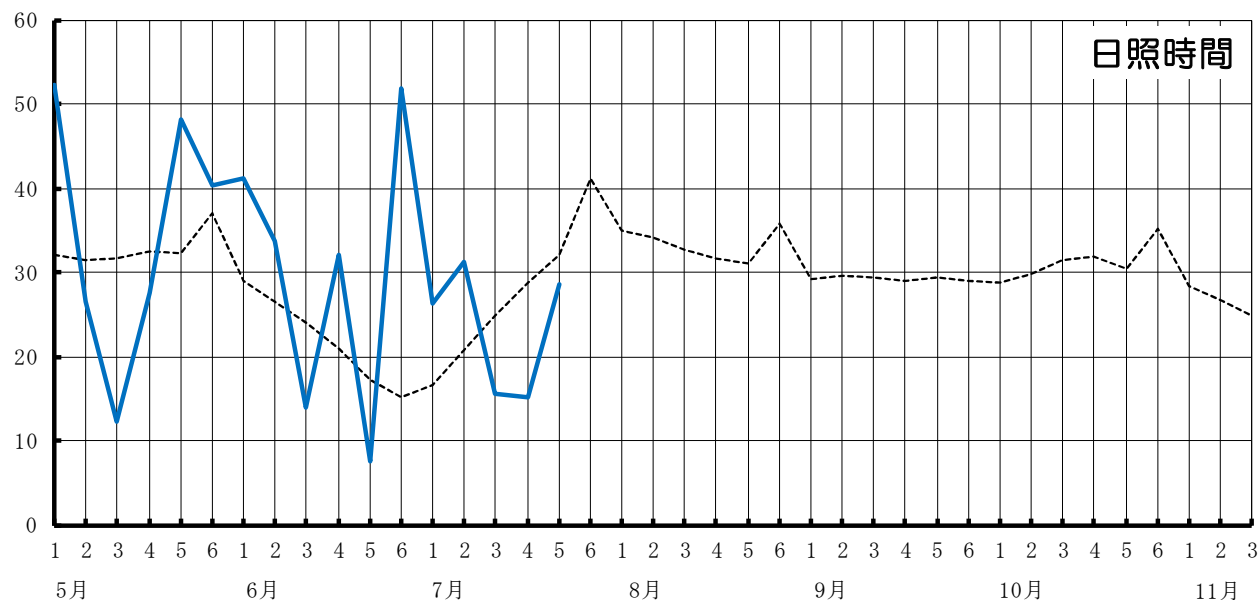
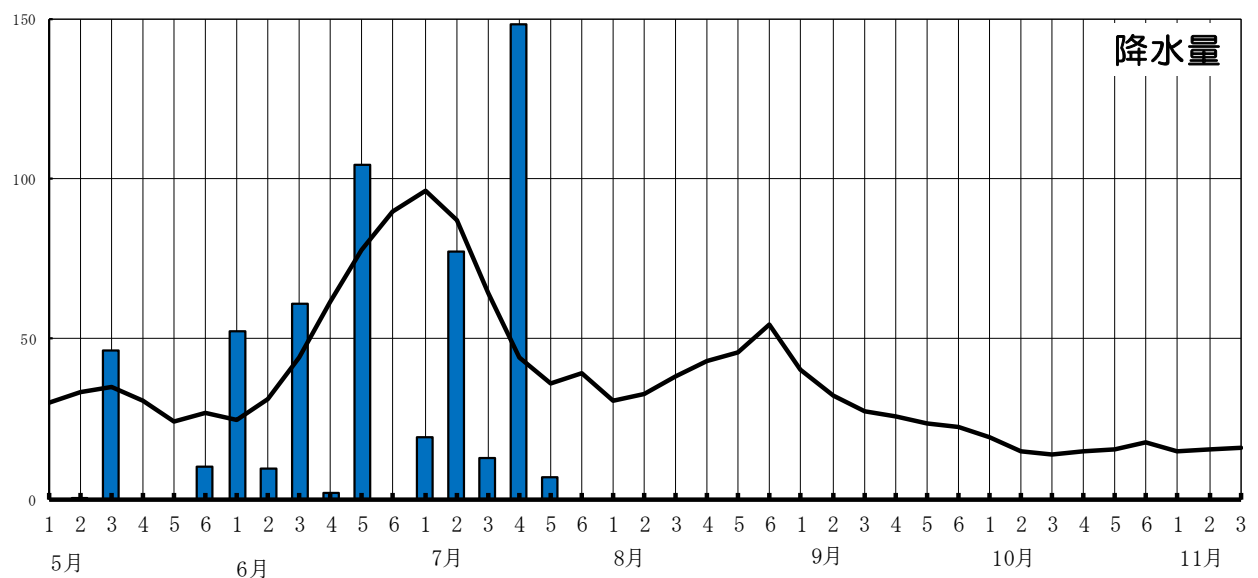
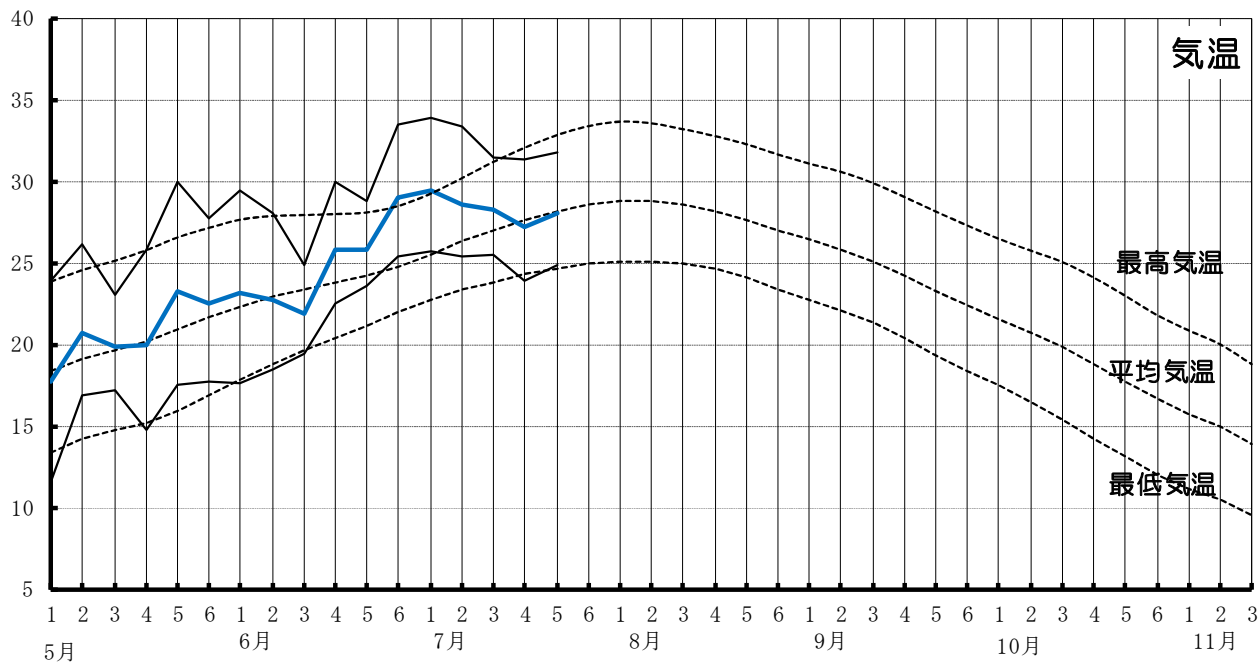
- 播種直後に土壌処理剤を散布してください。なお、難防除雑草のヒロハフウリンホオズキ、ホソアオゲイトウの発生が多い圃場ではフルミオ、ラクサー乳剤が効果的です。

○生育期処理

- 雑草の発生が多い圃場では、中耕培土を実施し、雑草の発生に応じて生育期処理の茎葉処理剤(イネ科：ポルトフロアブル、広葉：アタックショット乳剤等)を散布してください。
- アサガオ類・ホオズキ類の難防除雑草の発生が多い地域では、圃場内侵入防止に努めましょう。また圃場内に発生している場合は、発生が少ないうちに、雑草の開花や結実前までの茎葉処理除草剤のスポット散布や手取りによる徹底防除を行ってください。

令和4年産水稲生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

三神農業振興センター



海外飛来性害虫情報第10号(ウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況)(2022年7月28日更新)

月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ					コブノメイガ						
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県			佐賀県					長崎県	
		佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップA	諫早市 ネット トラップB	佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップA	諫早市 ネット トラップB	佐賀市 フェロモン トラップA	佐賀市 フェロモン トラップB	神崎市 粘着トラップ (20W蛍 光灯)	伊万里市 粘着トラップ (20W蛍 光灯)	白石町 粘着トラップ (20W蛍 光灯)	武雄市 粘着トラップ (20W蛍 光灯)	諫早市 フェロモン トラップA
5月	1日	0		0	0	0	0		0	0	0							
	2日	0		0	0	0	0		0	0	0							
	3日	0		0	0	0	0		0	0	0							
	4日	0		0	0	0	0		0	0	0							
	5日	0		0	0	0	0		0	0	0							
	6日	0		0	0	0	0		0	0	0							
	7日	0		0	0	0	0		0	0	0							
	8日	0		0	0	0	0		0	0	0							
	9日	0		0	0	0	0		0	0	0							
	10日	0		0	0	0	0		0	0	0							
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	21日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	22日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	23日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	24日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	25日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	27日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	28日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	29日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	30日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	31日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0		0	0	0	0	1	0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		0	0	0	0	0	0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	1	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	1	0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	4	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	-	0	4	0
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	4	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0		0	0	-	0	0	0
	15日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0		0	0	0	0	0	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	19日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0		0	0	0	0	0	0
	20日	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0		0	0	0	0	1	0
	21日	0	0	0	0	0	2	0	11	0	0		0	0	0	0	0	0
	22日	0	2	0	0	0	5	1	1	1	0		0	0	0	0	0	0
	23日	1	0	0	0	0	4	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	24日	1	7	0	0	0	3	2	1	2	1		0	0	0	0	0	0
	25日	41	0	0	0	0	18	3	1	0	0		0	0	0	0	2	1
	26日	1	0	0	0	0	2	2	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	27日	65	0	0	0	0	1	8	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	28日	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0		0	0	0	0	0	0
	29日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0		0	0	0	0	0	0
	30日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	1	0
7月	1日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0		0	0	0	0	0	0
	2日	-	0	0	0	0	-	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	1	0
	5日	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	6日	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0
	8日	0	36	0	0	0	0	71	5	0	0		0	0	0	0	0	0
	9日	-	2	0	0	0	-	9	3	0	0		0	0	0	0	0	0
	10日	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0		0	0	0	0	0	0

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。
 注2)コブノメイガ:神崎市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
 ※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

次ページへ続く

月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ					コブノメイガ							
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県			佐賀県				長崎県			
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市	諫早市
ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB	粘着トラップ (20W蛍 光灯)	粘着トラップ (20W蛍 光灯)	粘着トラップ (20W蛍 光灯)	粘着トラップ (20W蛍 光灯)	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB		
7月	11日	0	1	0	0	0	41	0	0	0	0	0						0	0
	12日	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0
	13日	0	0	0	0	0	4	2	0	0	0	0						1	2
	14日	0	0	0	0	0	9	3	0	0	0	0						1	1
	15日	0	5	0	0	0	10	9	0	0	0	0						3	1
	16日	0	7	0	0	0	4	16	1	0	0	0	0	0	0	0		0	1
	17日	0	4	0	0	0	2	8	0	0	0	0						5	5
	18日	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0						1	1
	19日	0	113	5	0	0	3	74	17	0	0	0						1	3
	20日	1	1	0	0	0	2	50	28	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0
	21日	0	2				34	19					0	0					
	22日	0	0				0	9					1	0					
	23日	0	0				0	24					0	0	0	2			
	24日	0	2				1	894					0	0					
	25日		0					9											
	26日																		
	27日																		
	28日																		
	29日																		
	30日																		
	31日																		
8月	1日																		
	2日																		
	3日																		
	4日																		
	5日																		
	6日																		
	7日																		
	8日																		
	9日																		
	10日																		
	11日																		
	12日																		
	13日																		
	14日																		
15日																			
16日																			
17日																			
18日																			
19日																			
20日																			
21日																			
22日																			
23日																			
24日																			
25日																			
26日																			
27日																			
28日																			
29日																			
30日																			
31日																			
9月	1日																		
	2日																		
	3日																		
	4日																		
	5日																		
	6日																		
	7日																		

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。
 注2)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
 ※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

BLASTAM情報第7号(葉いもち感染好適条件の出現状況)(2022年7月28日更新) ※図1,図2も参照

月	日	佐賀					福岡			長崎	
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	前原	大宰府	久留米	松浦	佐世保
6月	1日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	5日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7日	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
	8日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	9日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	10日	-	?	-	-	-	-	-	-	-	-
	11日	-	-	-	-	●	-	●	●	-	●
	12日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	13日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	14日	●	-	-	-	-	-	●	-	●	-
	15日	-	-	-	●	-	-	●	-	-	-
	16日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	17日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	18日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	19日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	21日	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-
	22日	●	●	-	●	-	2	-	-	●	-
	23日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	24日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	25日	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-
	26日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	27日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	28日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	29日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月	1日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	2日	-	?	-	-	-	?	-	-	?	
	3日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	4日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5日	3	-	-	-	-	3	-	-	3	
	6日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	7日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	8日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	9日	-	3	-	3	-	-	3	-	-	
	10日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	11日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	12日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	13日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	14日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	15日	3	-	-	3	-	-	-	3	-	
	16日	-	2	-	-	-	-	-	-	-	
	17日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	18日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	19日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	20日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	21日	-	-	3	-	-	-	-	3	-	
	22日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	23日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	24日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	25日	-	3	-	3	-	-	-	-	3	
	26日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	27日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

- 1：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満）
- 2：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上）
- 3：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15～25℃の範囲外）
- 4：準好適条件（湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い）
- ：好適条件（湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した）
- ：好適条件の出現なし
- ？：判定不能

BLASTAMの活用方法

- (1) BLASTAMは、気象条件(アメダスデータ)のみによって葉いもちの発生を予測するシステムである。しかしながら、実際の圃場における葉いもちの発生には、気象条件の外にも、菌の多少(密度)、イネ品種による抵抗性や体質、薬剤防除条件などが大きく関与している。したがって、BLASTAMは、あくまでも葉いもち発生予察の参考資料の一つとして扱う。
- (2) BLASTAMは、葉いもちを対象としており、稲の移植約20日後を起点とした35日間(6月15日移植の場合、7月5日～8月10日)が適用期間とされている。ただし箱施薬が行われた圃場では、その持続期間中はBLASTAMは使用できない。
- (3) 葉いもちは、菌の侵入から発病までの潜伏期間が約1週間である。そのため、BLASTAMによる感染(準感染)好適条件が現れた場合、感染株では約1週間後から初発生あるいは病斑数の急激な増加が予想できる。
- (4) BLASTAMによる感染(準感染)好適条件の出現回数が多いと、その地域の葉いもちの発生面積が増加し、発病程度も著しくなることが予想できる。

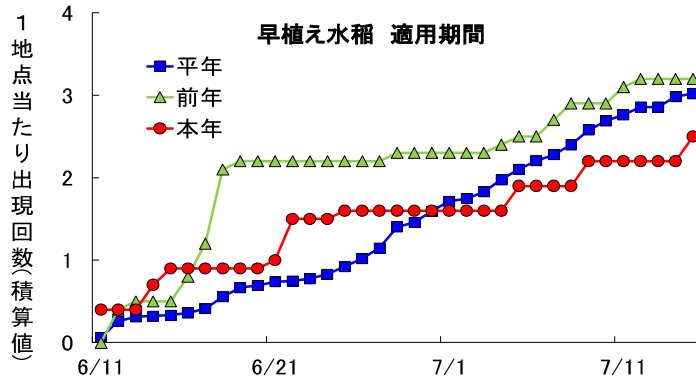


図1 BLASTAMIによる準感染・感染好適条件の出現回数
(5月22日移植の場合：適用期間6月11日～7月15日)

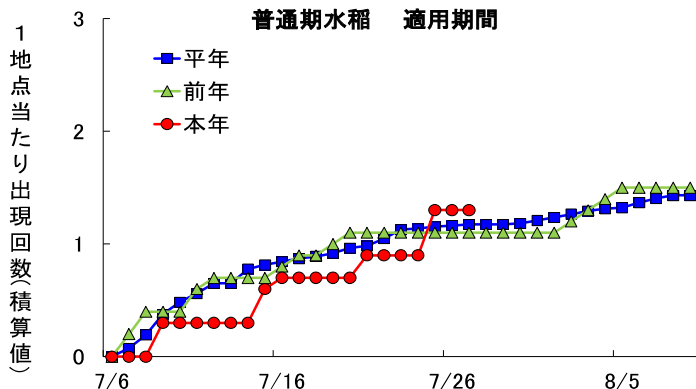


図2 BLASTAMIによる準感染・感染好適条件の出現回数
(6月16日移植の場合：適用期間7月6日～8月9日)

早期水稻定期調査結果(令和4年7月)

25株調査

調査月日：7月15日

調査地点	葉いもち		紋枯病		セジロウンカ			トビイロウンカ				ヒメトビウンカ			コブノメイガ		フタバトヤガ	備考	
	発生株率	発病程度	発生株率	発病程度	発生株率	最高頭数		発生株率	最高頭数		幼虫の齢	短翅雌	発生株率	最高頭数		発生株率	被害程度		発生株率
						成虫	幼虫		成虫	幼虫									
唐津市鎮西町①	0		4	少	0			0					0			0		0	
" ②	0		4	少	52		2	若・中	0				4		1	0		0	
" ③	0		0		4		1	中	0				0			0		0	
" ④	0		0		4		2	若・中	0				0			0		0	斑点米カメムシ
唐津市肥前町①	0		0		0				0				0			0		0	
" ②	4	少	0		4		1	老	0				4		1	0		0	斑点米カメムシ
" ③	0		0		0				0				12	1	1	0		0	斑点米カメムシ
" ④	0		0		0				0				0			0		0	
玄海町①	0		0		8		2	中・老	0				0			0		0	
" ②	0		0		8	1			0				2		1	0		0	
" ③	0		0		0				0				0			0		0	
" ④	0		0		36		4	若・中	4			1	中	1		1	0	0	
発生圃場率	8.3		16.7		58.3			8.3				41.7			0		0		
平均発生率	0.3		0.7		9.7			0.3				1.9			0		0		
発生率の平年値	4.4		1.4		5.2			0.3				1.1			0.1		0.2		
(平年比)	やや少		やや少		並			並				やや多			並		並		
発生率の前年値	13.0		0.3		3.3			0				2.0			0		0		
平年値の幅 (7月下旬の値)	やや多の上限	11.0	2.8		11.9			1.0					2.1			0.4		0.8	
	並の上限	7.1	2.0		7.9			0.6					1.5			0.2		0.4	
	並の下限	1.7	0.8		2.5			0.0					0.7			-0.0		-0.0	
	やや少の下限	-2.2	0.0		-1.5			-0.4					0.1			-0.2		-0.4	
平年値の幅 (8月上旬の値)	やや多の上限	8.9	6.1		11.8			43.1					3.6			0.8		0.1	
	並の上限	6.2	4.4		7.9			24.5					2.4			0.4		0.0	
	並の下限	2.6	2.0		2.5			-1.1					0.6			-0.0		-0.0	
	やや少の下限	-0.1	0.3		-1.4			-19.7					-0.6			-0.4		-0.1	

普通期水稻定期調査結果(令和4年7月)

25株調査

調査月日：7月13日～20日

調査地点	葉いもち		紋枯病		セジロウンカ			トビイロウンカ				ヒメビロウンカ		コブノメイガ		フタホコ	
	発生株率	発病程度	発生株率	発病程度	寄生株率	最高頭数 成虫	幼虫 頭数 の齢	寄生株率	最高頭数 成虫	幼虫 頭数 の齢	短翅 雌	寄生株率	最高頭数 成虫	幼虫 頭数	発生株率	被害 程度	寄生 株率
佐賀市東与賀町①	0		0		0	0	4	0				0		0			0
" ②	0		0		0			0				0		0			0
" ③	0		0		0			0				0		0			0
" ④	0		0		0			0				0		0			0
多久市南多久町①	0		0		0			0				0		0			0
" ②	0		0		0			0				0		0			0
" ③	0		0		0			0				0		0			0
" ④	0		0		0			0				0		0			0
小城市三日月町①	0		0		0			0				0		0			0
" ②	0		0		0			0				0		0			0
" ③	0		0		0			0				4	1	0			0
" ④	0		0		0			0				4	1	0			0
鳥栖市三島町①	0		0		0			0				0		0			0
" ②	0		0		0			0				0		0			0
" ③	0		0		0			0				0		0			0
" ④	0		0		0			0				0		0			0
神崎市千代田町①	0		0		0			0				0		0			0
" ②	0		0		0			0				0		0			0
" ③	0		0		0			0				0		0			0
" ④	0		0		0			0				0		0			0
吉野ヶ里町①	0		0		0			0				0		0			0
" ②	0		0		0			0				0		0			0
" ③	0		0		0			0				0		0			0
" ④	0		0		0			0				0		0			0
唐津市半田①	0		0		0			0				0		0			0
" ②	0		0		0			0				0		0			0
" ③	0		0		0			0				0		0			0
" ④	0		0		0			0				0		0			0
伊万里市二里町①	0		0		0	0	1	若	0			4	0	1	0		0
" ②	0		0		4	0			0			4	0	1	0		0
" ③	0		0		0				0			0		0			0
" ④	0		0		0				0			0		0			0
武雄市橋町①	0		0		0				0			0		4	少		0
" ②	0		0		0				0			0		0			0
" ③	0		0		0				0			0		0			0
" ④	0		0		0				0			0		0			0
白石町新明①	0		0		0				0			0		0			0
" ②	0		0		0				0			0		0			0
" ③	0		0		0				0			0		0			0
" ④	0		0		0				0			0		0			0
鹿島市①	0		0		0				0			4	1	0			0
" ②	0		0		0				0			0		0			0
" ③	0		0		0				0			0		0			0
" ④	0		0		0				0			0		0			0
嬉野市嬉野町①	0		0		0				0			0		8	少		0
" ②	0		0		0				0			0		0			0
" ③	0		0		4	1	0		0			0		0			0
" ④	8	少	0		0				0			0		0			0
発生圃場率	2.1		0		6.3				0			8.3		4.2			0
平均発生率	0.2		0		0.4				0			0.3		0.3			0.0
発生率の平年値	2.5		0		14.9				0			2.3		1.5			0.02
(平年比)	やや少		並		やや少				並			やや少		並			並
発生率の前年値	0		0		2.5				0			0.1		0			0
平年値の幅 (7月下旬の値)	やや多の上限	7.4	0.0		30.6				0.0			4.7		5.6			0.0
	並の上限	4.5	0.0		21.3				0.0			3.3		3.2			0.0
	並の下限	0.5	0.0		8.5				0.0			1.3		-0.2			-0.0
	やや少の下限	-2.4	0.0		-0.8				0.0			-0.1		-2.6			-0.0
平年値の幅 (8月下旬の値)	やや多の上限	26.6	5.6		28.2				12.8			14.9		24.8			3.2
	並の上限	18.8	3.8		21.3				8.3			9.9		15.5			1.9
	並の下限	8.2	1.2		11.7				2.1			2.9		2.7			-0.1
	やや少の下限	0.4	-0.6		4.8				-2.4			-2.1		-6.6			-1.4